

## (6) 北 陸



北陸地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

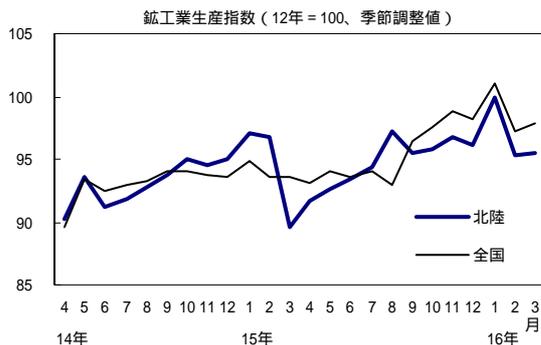
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 16 年 2 月)	今回 (平成 16 年 5 月)
個人消費	おおむね横ばい	緩やかに持ち直している

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

一般機械は、建設機械が米国向け輸出を中心に好調なほか、プレス機械や工作機械が自動車関連メーカー向けを中心に増加している。電子部品・デバイスは、デジタル家電向けや携帯電話向け等の半導体集積回路を中心とした増加が続いている。化学は、医薬品がOEM（相手先商標生産）や後発医薬品の生産等で引き続き堅調に推移している。繊維は、外需は中国、米国向け高付加価値製品を中心に引き続き持ち直しの兆しがみられ、非衣料品においてカーシートやエアバッグ等の自動車内装材が緩やかに増加しているものの、衣料品において内需は引き続き低調である。金属製品は、アルミ建材の住宅用がリフォーム案件等で増加しているものの、ビル用は首都圏のビル建築が一巡していること等から緩やかな減少傾向にある。



(備考) 平成 16 年 3 月の北陸は速報値。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

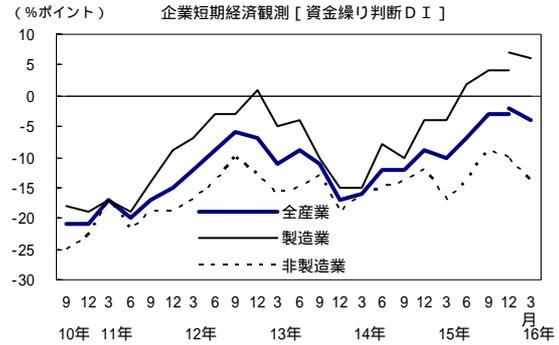
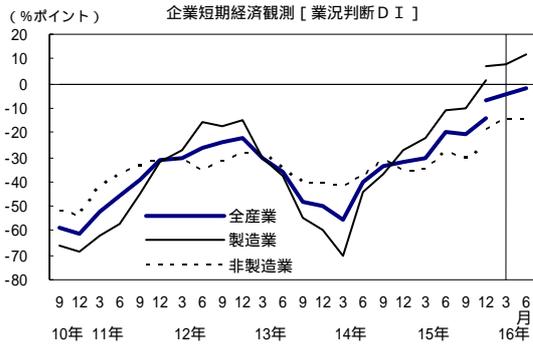
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	14.8	1.8	4.0	-	-
電子部品・デバイス	13.8	7.0	5.2	-	-
化学	12.7	1.3	7.8	-	-
繊維	12.4	1.3	3.6	-	-
金属製品	10.6	2.9	1.0	-	-
鉱工業	100.0	0.5	0.7	-	-

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1~3月期は速報値。

3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。  
企業短期経済観測調査 [ 業況判断D I、資金繰り判断D I ] 及び中小企業景況調査 [ 業況判断D I ]

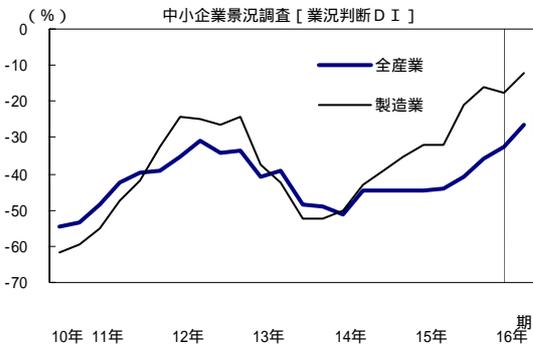


(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年6月は予測。

なお、15年12月分については、新・旧両基準の値を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

なお、15年12月分については、新・旧両基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

中部地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [ 企業動向関連 (現状判断) ]

「鉄鋼や造船など中国関連の需要がおう盛で、これに関連している業界では非常に活発な商いが行われている。これに伴い、価格も多少高くなっており、量も増えつつある (輸送業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 15年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の見込みとなっている。

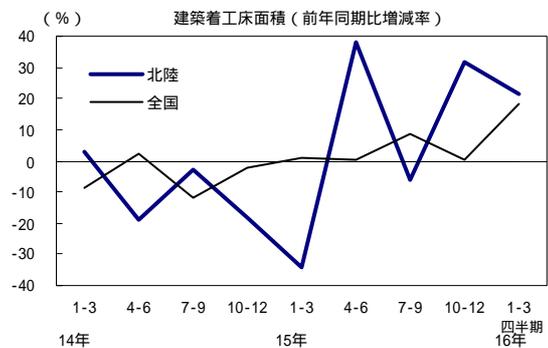
企業短期経済観測調査 [ 設備投資 (3月調査) ]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績見込み	16年度見込み
全産業	0.4 ( 1.8 )	6.6
製造業	0.8 ( 3.5 )	25.9
非製造業	1.7 ( 0.2 )	16.1

(備考) ( ) は前回 (12月) 調査比修正率。

15年度実績見込み及び16年度計画ともに、調査見直し後の基準による。



(6) 北陸

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

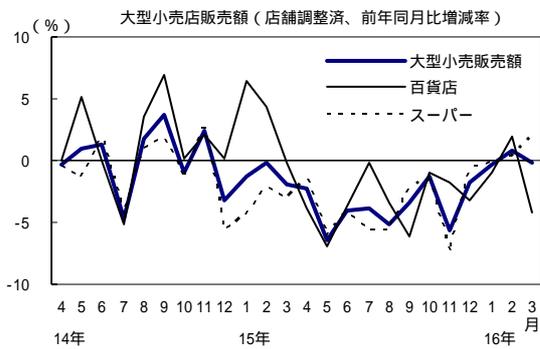
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月はクリアランスセールが堅調だったものの、下旬の降雪により客数が減少したことから衣料品全体では前年を下回り、全体でも前年を下回った。2月は催事等による客数の増加もあって、飲食品や春物婦人服に動きがあり、衣料品全体として6か月ぶりに前年を上回るなど、全体でも12か月ぶりに前年を上回った。3月は気温の変動が激しかったことから春物衣料が振るわず、衣料品全体で前年を下回るとともに、全体としても前年を下回った。

スーパーは、2月に全体として15か月ぶりに前年を上回り、3月には衣料品が5か月ぶりに前年を上回るなど、全体では2か月連続して前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

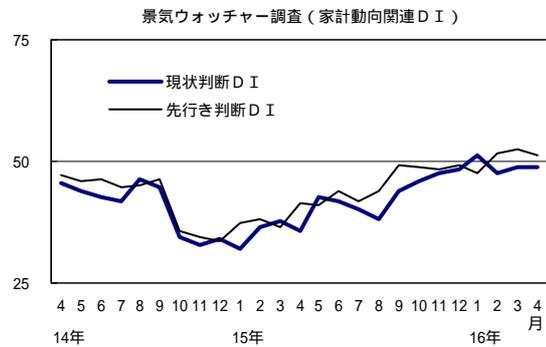
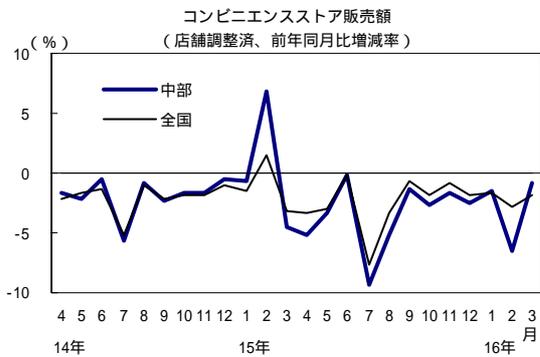
「月初は客が消費税の総額表示に戸惑ったため、売上が若干落ちたが、月末にかけて客の動きも落ち着き、平常に戻った。来客数は増加しており、少しずつ購買意欲が活発になってきた(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月
大型小売店	4.3	4.1	2.8	0.0
百貨店	4.9	2.9	2.2	1.3
スーパー	4.0	4.6	3.2	0.6
コンビニ	2.8	5.4	2.3	3.0
景気ウォッチャー	40.1	40.7	47.3	49.1

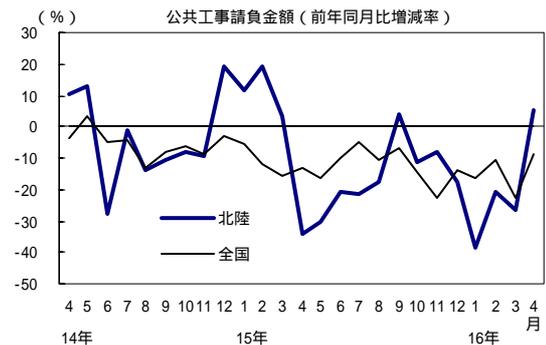
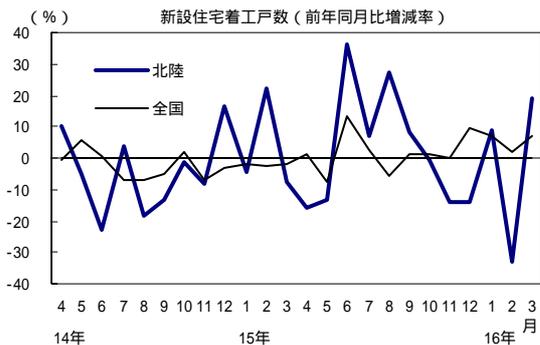
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。16年1-3月期は速報値。コンビニ販売額は店舗調整済。中部地区の値。  
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を上回ったものの、分譲を中心に前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は15年度累計で見ると前年度を下回っている。

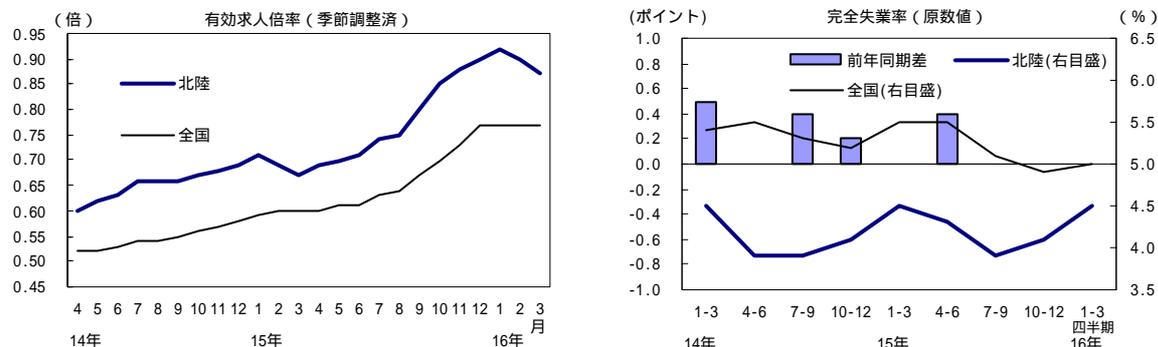


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準である。



景気ウォッチャー調査 (4月調査) [雇用関連 (現状判断)]

「少人数ながら製造関係も増加傾向にある。CAD、電気設計、設計技術者など高度な技術を要する人の求人はあるものの、人材不足の状況である (民間職業紹介機関)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数はやや上昇している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月	16年4月
倒産件数	100	113	84	101	36
(前年比)	13.8	23.6	26.3	12.9	9.1
負債総額	202	468	295	539	49
(前年比)	38.3	27.8	7.0	53.8	17.3



景気ウォッチャー調査 (4月調査) [合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・不動産登記関係では住宅ローン以外の設定は少なく、相談業務の中では債務整理が極端に減っている (司法書士)

<先行き>

- ・アテネオリンピックを間近に控え、DVDレコーダーは引き続き好調に推移している。また、いったん落ち着いた薄型大画面テレビも売上が大幅に伸びる (家電量販店)

